

1. 日本側参加研究者の体制

①採択年度（和暦）	平成30	年度	②採択期間 （通常A型は5年間、B型は3年間）	5	年間 （1年未満は切上げ）	③事業の型 （AまたはBを記入）	A	型
④日本側拠点機関名（和文）	北海道大学							
⑤コーディネーター部局名・職名・氏名（和文）	アイヌ・先住民研究センター・教授・加藤 博文							
⑥日本側協力機関名（和文）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）								
東京大学								
琉球大学								

⑦参加研究者数内訳 （重複カウントしないこと）	教授級 以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者	合計	第三国所属の研究者 （内数）
拠点機関	4	6	3	12	0	25	0
協力機関・協力研究者	7	10	2	13	1	33	0
合計	11	16	5	25	1	58	0

⑧手引2-4記載の参加資格のない者の内訳（適宜、行を加除。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）

所属・職	専門分野	研究交流での役割
沖縄県立埋蔵文化財センター・主任研究員	考古学	2019年度にPalauと台湾で開催するセミナーS-4において沖縄における戦跡遺跡の保存と活用、沖縄での文化遺産と地域コミュニティの関わりについて解説する基調講演を依頼する

⑨「第三国所属の研究者」内訳（平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）

所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	日本側参加者として一体的な協力体制を確保する方法
該当なし			

2. 経費

事業の型 A 型				
①当該年度の本事業による経費の支出				
経費内訳	金額 (単位:円)	備考		
研究交流経費	国内旅費※1	4,602,410		
	外国旅費※1	6,057,806		
	謝金	0		
	備品・消耗品購入費	188,771		
	その他経費	2,651,013		
	不課税取引・非課税取引に係る消費税※2	0		受託機関で負担
	計	13,500,000		
業務委託手数料	1,350,000	研究交流経費の10% (1円未満切捨)。消費税額は内額とする。		
合計	14,850,000			

※1「国内旅費」「外国旅費」の合計が、研究交流経費支出額の50%を超えていない場合、備考欄にエラーが出ます。

※2 受託機関における課税、非課税(免税)の区分に応じた対象額を算定のこと。受託機関で負担の場合はその旨、備考欄に記載すること。

②研究交流経費(総額)の30%に相当する額を超える各経費費目の増減があった場合の説明事由(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)

該当なし			
③ 日本側の参加研究者による旅費	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本である者の旅費の総額 (単位:千円)	10,660	
	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本以外である者の旅費の総額 (単位:千円)	日本→日本以外の渡航	0
		日本以外→日本の渡航	0
		日本以外→日本以外の渡航	0
(単位:千円) (B型のみ) (千円未満切捨て) ④ (相手国側参加研究者)の旅費の総額	日本または相手国→日本の渡航	(単位:千円) (千円未満切捨て) (左記のうち、第三国所属の相手国側)	日本または相手国→日本の渡航
	日本又は相手国→相手国の渡航		日本又は相手国→相手国の渡航
	日本または相手国→第三国の渡航		日本または相手国→第三国の渡航
	第三国→日本の渡航		第三国→日本の渡航
	第三国→相手国の渡航		第三国→相手国の渡航
	第三国→第三国の渡航		第三国→第三国の渡航

※旅費は、往復の金額で記載すること(例:第三国から日本に渡航の場合、第三国→日本→第三国の往復の渡航費を「第三国→日本の渡航」の欄に記載)。

経由国がある場合は、日本側拠点機関の規定等に基づき、旅費の分類・切り分けを行い、記入すること。

⑤ (B型のみ) 中国・韓国・シンガポール・台湾側参加者の外国旅費がある場合(交流経費の5%以内。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)

総額 (単位:千円)	手引2-6記載の要件を満たす旨の事由説明

⑥相手国マッチングファンド(=相手国側拠点機関が本研究課題に使用した研究交流経費)(単位:千円、千円未満切捨て)

全相手国のマッチングファンド総額	相手国拠点機関数	相手国拠点機関のマッチングファンド平均
9,270	7	1,324

3. 共同研究・セミナー

事業の型		A 型							
①共同研究 (適宜、行を加除すること。)				現在の年度に○を付けること→					
共同研究 整理番号	共同研究課題名 (和文)	日本側代表者氏名・所属・職名	1年目	2年目	3年目	A型のみ			
			実施年度に ○を付ける ↓	実施年度に ○を付ける ↓	実施年度に ○を付ける ↓	4年目 実施年度に○を 付ける↓	5年目 実施年度に○を 付ける↓		
R 1	文化的多様性の歴史と先住性	加藤博文・北海道大学・教授	○	○	○	○		○	○
R 2	人類の文化的行動としての移住・適応・統合	加藤博文・北海道大学・教授	○	○	○	○		○	○
共同研究の実施状況 (当該年度実施の共同研究について、共同研究整理番号毎に、特筆すべき成果、相手国側拠点機関との主体的な取り組み及び今後の研究への波及効果、研究協力体制の構築状況等について記載すること。また、手引6-3変更事例No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。)									
<p>共同研究R1は、「文化的多様性の歴史と先住性」をテーマに、主にオックスフォード大学、国立台湾大学、オーストラリア国立大学、サイモン・フレージャー大学と研究交流に取り組んだ。オーストラリア国立大学(ANU)とは、南オーストラリア州アデレードでANUが実施した先住民文化遺産の返還プログラムに大学院生を含む日本側が参加し、共同討議や意見交換を行った。サイモン・フレージャー大学(SFU)とは、「先住民遺産と知的財産権問題」をテーマに北海道大学の国際共同教育プログラムである"Hokkaido Summer Institute"の一環として、札幌の北大キャンパスにおいてSFUの教員を招へいして大学院生向けのセミナーを開催した。これにフィンランドやアメリカ、台湾以外に交流先以外の中国からの大学院生の参加もあり、盛況であった。当初、予定していたSFUとオックスフォード大学で行うワークショップは、新型コロナウイルスの影響で開催することができなかったが、オックスフォード大学との共同研究については、2本の共著論文を現在執筆中である。現在、ANUでは、新たなマッチングファンドの申請を進めており、これに日本側コーディネーターが共同研究者として登録している。SFUとの共同研究は、アメリカの研究者を含めて拡大させる予定である。研究体制の構築については、個々の大学との間では報告性が定まってきたており、今後は、イギリス、台湾、オーストラリア、カナダをつなぐ共同研究の構築に向けて努力する予定である。</p> <p>共同研究R2は、「人類の文化的行動としての移住・適応・統合」をテーマに、主にウプサラ大学、フローニンゲン大学、極東連邦大学と研究交流に取り組んだ。極東連邦大学とは、2019年5月にウラジオストックの極東連邦大学キャンパスにおいて開催された国際シンポジウムの中で、イギリス、オランダ、ロシアから参加した研究者と研究討議を行うことができた。フローニンゲン大学とは、フローニンゲン大学の研究者が北海道大学に2019年9月から2020年2月まで滞在し、共同研究を進め、共著論文を作成したほか、共著の著作の作成を開始した。ウプサラ大学とは、ウプサラ大学の研究者がセミナーS1に参加し、共同研究を実施したほか、次回のワークショップについて協議を行った。又、ウプサラ大学の研究者とは、共同編集の著作が校正作業に入っており、イギリスの出版社から刊行される予定である。極東連邦大学で開催する春季のシンポジウムにオランダからの研究者が継続して参加するようになってきている。又、札幌でオランダ、ロシアの研究者が共同で討議する機会を計画している。今後は、この動きにスウェーデンの研究者が参加できる枠組み作りに取り組む予定である。</p>									

②セミナー (当該年度開催分について、記載。適宜、行を加除すること。)				
セミナー	セミナー名 (和文)	セミナー名 (英文)	開催地 (国名・都市名・会場)	開催期間 (開催の月日～開催の月日 (○は日曜))
S 1	日本学術振興会研究拠点形成事業 礼文国際フィールドスクール	JSPS Core to Core Program Rebun International Field School	日本・礼文町・浜中 2遺跡	2019年8月4日～8月25日
S 2	日本学術振興会研究拠点形成事業 先住民文化遺産と返還問題	JSPS Core to Core Program Indigenous Heritage and Repatriation	スウェーデン、ヴィ スヴィ・ウプサラ大 学ゴットランドキャン パス	2019年5月20日21日
S 3	日本学術振興会研究拠点形成事業 北方圏における移住と適応 (太平洋考古学)	JSPS Core to Core Program Migration and Adaptation in the North (Pacific)	ロシア・ウラジオス トック・極東連邦大	2019年5月6日～5月8日
S 4	日本学術振興会研究拠点形成事業先住民文化遺産と地 域コミュニティ	JSPS Core to Core Program Indigenous Heritagen and Communities	パラオ・台湾	延期
S 5	日本学術振興会研究拠点形成事業先住性をめぐる人類 学・考古学的議論	JSPS Core to Core Program Indigeneity: Anthropological and Archaeological	オンライン実施	2021年3月23日
セミナーの開催状況 (当該年度開催のセミナーについて、セミナー整理番号毎に、参加者数 (総数、参加国名ごとの参加人数 (本事業経費による負担の有無を問わない)、交流を通じて得られた研究成果の発表・評価・とりまとめの状況、相手国とのネットワーク形成、若手の育成等の効果等について記載すること。また、手引6-3「軽微な変更の事例」の変更事項No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。)				
<p>セミナーS1の参加者数は、総数41名 (内訳は、日本が14名、アメリカ6名、中国6名、台湾5名、ロシア3名、イギリス、スウェーデン、オランダ、エストニア、フィンランド、オーストラリア、イタリア各1名)であった。毎年多彩な参加者で構成されるが、2019年度はアメリカ、スウェーデン、台湾の研究者による大学院生向けの講義も行われ、若手育成の面でも高い効果をおげることができた。</p> <p>セミナーS2の参加者数は、総数20名 (内訳は、日本が3名、スウェーデン17名、チリ2名)であった。北欧や太平洋における先住民の文化遺産の返還問題の動向を理解する上で貴重な情報を共有することができた。又北米や日本の動向を海外の研究者へ発信する機会を得ることができ、参加者から高い関心が寄せられた。ウプサラ大学と北海道大学から大学院生が参加したことで、若手育成の貴重な機会を提供することができた。</p> <p>セミナーS3の参加者数は、総数50名 (内訳は、日本が4名、イギリス1名、オランダ2名、ロシア43名)であった。本セミナーは極東連邦大学が主催する国際シンポジウムに共催する形で実施したが、ロシアに限らず広く関心をもつ研究者が研究成果を公開し、意見交換する有意義な機会を提供することができた。日本からも北海道大学と東北大学から研究者や院生が参加し、太平洋域の研究ネットワーク構築の重要性を再認識する上でも貴重な機会であった。このような若手研究者を含めたネットワーク構築の機会は、大学院生さらにポストドクレベルでの若手研究者の国際流動性を促進する意味でも有意義である。なお本セミナーは当初10月に開催と主催者側から希望が示されていたが、予算を含めて前倒しでの開催が可能となり、5月開催となった。</p> <p>セミナーS4の参加者数は、総数30名 (日本側3名、ロシア5名、アメリカ1名、中国4名、台湾27名)であった。当初、台湾の前に計画していたパラオでのセミナーがパラオ政府の都合で開催が翌年に延期となったため、台湾でのワークショップのみを国立台湾史前博物館と行った。そのため、スウェーデンおよび日本からの参加者数が当初よりも少なくなる結果となっている。台湾から南太平洋にかけての研究動向は、現時点ではヨーロッパや北米ではまだ十分に把握されておらず、海外の研究者の関心は高い。次年度以降にこのワークショップを実現し、研究ネットワークの拡大に努力したい。</p> <p>セミナーS5は、2020年冬から春にかけて世界的に蔓延した新型コロナウイルスのために開催を断念し、延期した。2021年3月23日にオンライン形式で開催し、参加者数は18名 (日本側7名、イギリス側11名)であった。若手研究者4名の研究報告に加えて、本事業の研究交流の成果を基礎に北海道大学総長の認定を受けて2021年4月1日よりスタートするグローバルステーションを中軸とした研究交流のあり方についての意見交換を行なった。若手研究者育成の方法やコロナ禍での交流形式についての意見交換を行う有意義な機会となった。</p>				

<p>③当該年度に第三国でのセミナー開催があった場合の、本事業の位置づけ、第三国で開催する経済的かつ合理的な理由、そして相手国側拠点との開催経費の分担状況 (セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引2-7(7)参照のこと。)</p>
<p>該当なし。第三国でのセミナーをパラオにおいて予定していたが、現地政府の都合、および主催者であるウブサラ大学のコーディネーターの判断により開催が延期となった。</p>
<p>④当該年度に開催のセミナーで、参加研究者以外の者に本事業経費を使って基調講演を依頼した場合の、日本側拠点機関にとってのメリット (セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引4-4(1)①参照のこと。)</p>
<p>該当なし。</p>

4. 研究交流状況

事業の型 A 型							
①日本→海外の渡航数(本事業経費による渡航) (適宜、行を加除すること。)							
国名(派遣先) 第三国は、国名の後に(第三国)と記載すること。	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例: 4 (教授級以上1、大学院生3)
1 イギリス	2			1		3	
2 スウェーデン	1			1		2	
3 台湾	1			1		2	
4 オーストラリア	1			3		4	
5 カナダ	1		1			2	
6 ロシア	1		1	1		3	
7 デンマーク(第三国)	1					1	
計	8	0	2	7	0	17	
第三国への渡航がある場合は、各渡航について、手引4-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明(適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)							
デンマーク: スウェーデン側に所属する参加研究者と日欧間のポスドク循環プログラムの構築についての協議を行った。							

②海外→日本の渡航数(本事業経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)							
国名(派遣元) 第三国は、国名の後に(第三国)と記載すること。	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例: 4 (教授級以上1、大学院生3)
1 該当なし						0	
計	0	0	0	0	0	0	
第三国からの渡航がある場合は、各渡航について、手引4-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明(適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)							
該当なし							

③日本以外→日本以外の渡航数(本事業経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
国名(派遣元)	国名(派遣先)	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例: 4 (教授級以上1、大学院生3)
1 該当なし							0	
計		0	0	0	0	0	0	
各渡航について、手引4-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明(適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
該当なし								

④海外→日本の渡航数(相手国経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)							
国名(派遣元)	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の参加資格のない者・ その他	合計	
1 イギリス	0	0	1	1	0	2	
2 スウェーデン	0	1	0	0	0	1	
3 オランダ	0	1	0	0	0	1	
4 台湾	1	0	2	0	0	3	
5 オーストラリア	0	0	0	1	0	1	
6 カナダ	1	0	0	0	0	1	
7 ロシア	0	0	0	3	0	3	
計	2	2	3	5	0	12	

⑤日本→海外の渡航数(相手国経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)						
国名(派遣先)	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の参加資格のない者・ その他	合計
1 スウェーデン(ウプサラ大学)	1	0	0	1	0	2
計	1	0	0	1	0	2

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名(和文)	イギリス
②拠点機関名(和文および英文)	
和文: オックスフォード大学 英文: University of Oxford	
③コーディネーター所属 部署局・職名・氏名 (英文)	Institute of Archaeology・Professor・Chris Gosden
④協力機関名(和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: アバディーン大学 英文: University of Aberdeen	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級 以上	助教・准教授等	ポスドク等若手 研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	8	3	2	6	0	19	
協力機関・協力研究者	0	9	0	0	0	9	
合計	8	12	2	6	0	28	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考: 日本側研究交流経費 ¥13,500,000			
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例: 2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート(外貨1単位に 相当する円貨額)
A型のみ: パターン種別 パターン1か2を記入すること	1						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費				0	2021/4/5	GBP	¥0.0
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	◎	School of Archaeology,	なし	140	2021/4/5	GBP	¥153.0
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	○	School of Archaeology,	なし	100	2021/4/5	GBP	¥153.0
(4)相手国側研究者の相手国内旅費				0	2021/4/5	GBP	0
(5)相手国側研究者の研究経費				0	2021/4/5	GBP	0
(6)相手国開催のセミナー開催経費				0	2021/4/5	GBP	¥153.0
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)		合計		240			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名(和文)	スウェーデン
②拠点機関名(和文および英文)	
和文:ウプサラ大学 英文:Uppsala University	
③コーディネーター所属 部署・職名・氏名 (英文)	Department of Archaeology and Ancient History・Professor・Niel PRICE
④協力機関名(和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文:該当なし 英文:該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	2	10	0	3	0	15	
協力機関・協力研究者	4	7	3	5	0	19	14
合計	6	17	3	8	0	34	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した:○(ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし:× 当該年度実施なし:ー		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考: 日本側研究交流経費 ¥13,500,000			
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位:千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート(外貨1単位に相当する円貨額)
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	2						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	○	Dept. of Archaeology and Ancient History	なし	200	2021/4/5	SEK	12.69
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	◎	Dept. of Archaeology and Ancient History	なし	250	2021/4/5	SEK	12.69
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費				0			0
(4)相手国側研究者の相手国内旅費				0			0
(5)相手国側研究者の研究経費				0			0
(6)相手国開催のセミナー開催経費	○	Dept. of Archaeology and Ancient History	なし	30	2021/4/5	SEK	12.69
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)		合計		480			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名(和文)	オランダ
②拠点機関名(和文および英文)	
和文: フローニンゲン大学 英文: University of Groningen	
③コーディネーター所属 所属局・職名・氏名 (英文)	Arctic Centre・Director/Professor・Peter JORDAN
④協力機関名(和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: 国立ライデン世界文化博物館 英文: National Museum of World Culture, Leiden	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	1	2	3	10	0	16	
協力機関・協力研究者	1	1	0	0	0	2	
合計	2	3	3	10	0	18	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考: 日本側研究交流経費			
負担した: ○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -				¥13,500,000			
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例: 2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート(外貨1単位に相当する円貨額)
A型のみ: パターン種別 パターン1か2を記入すること	1						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費				0	2021/4/5	EUR	130.2
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	○	European Union Horizon 2020	MSC-ITN "ArchSci2020" Project	562	2021/4/5	EUR	130.2
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	○	European Union Horizon 2020	MSC-ITN "ArchSci2020" Project	809	2021/4/5	EUR	130.2
(4)相手国側研究者の相手国内旅費				0	2021/4/5	EUR	0.0
(5)相手国側研究者の研究経費	◎	European Union Horizon 2020	MSC-ITN "ArchSci2020" Project	4,433	2021/4/5	EUR	130.2
(6)相手国開催のセミナー開催経費				0	2021/4/5	EUR	0.0
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)		合計		5,804			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名(和文)	台湾
②拠点機関名(和文および英文)	
和文: 国立台湾大学 英文: National Taiwan University	
③コーディネーター所属 (英文)	Department of Anthropology・Professor・Maa-ling CHEN
④協力機関名(和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: 国立台湾史前文化博物館 英文: National Museum of Prehistory	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	1	3	2	5	0	11	
協力機関・協力研究者	0	1	8	0	0	9	
合計	1	4	10	5	0	20	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考: 日本側研究交流経費 ¥13,500,000			
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例: 2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート(外貨1単位に相当する円貨額)
A型のみ: パターン種別 パターン1か2を記入すること	1						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費				0	2021/4/5	TWD	0
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	◎	National Taiwan University	International Affair Fund of College of Libral Art	385	2021/4/5	TWD	3.87
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	○	National Taiwan University	International Affair Fund of College of Libral Art	284	2021/4/5	TWD	3.87
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	○	National Taiwan University	Social Structure and Regional Social Relationship	89	2021/4/5	TWD	3.87
(5)相手国側研究者の研究経費				0	2021/4/5	TWD	0
(6)相手国開催のセミナー開催経費				0	2021/4/5	TWD	3.87
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)		合計		758			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二日間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名(和文)	オーストラリア☑
②拠点機関名(和文および英文)	
和文: オーストラリア国立大学 英文: Australia National University ☑	
③コーディネーター所属部署・職名・氏名(英文)	Centre for Heritage and Museum Studies・Senior Research Fellow・Cressida FFORDE
④協力機関名(和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: オーストラリア国立博物館 英文: Australia National Museum	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	0	2	3	0	0	5	
協力機関・協力研究者	1	1	0	0	0	2	
合計	1	3	3	0	0	7	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考: 日本側研究交流経費 ¥13,500,000			
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額(単位:千円)	換算レート日(例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート(外貨1単位に相当する円貨額)
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費				0	2021/4/5	AUD	84.14
(2)相手国側研究者の国際航空運賃				0	2021/4/5	AUD	84.14
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費				0	2021/4/5	AUD	84.14
(4)相手国側研究者の相手国内旅費				0	2021/4/5	AUD	84.14
(5)相手国側研究者の研究経費	◎	National Museum of Australia	Research Centre	319	2021/4/5	AUD	84.14
(6)相手国開催のセミナー開催経費				0	2021/4/5	AUD	84.14
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)		合計		319			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名(和文)	カナダ
②拠点機関名(和文および英文)	
和文:サイモン・フレージャー大学 英文: Simon Fraser University	
③コーディネーター所属 部署・職名・氏名 (英文)	Department of Archaeology・Dean/Professor・George NICHOLAS
④協力機関名(和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: プリティッシュ・コロンビア大学 英文: University of British Columbia	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	1	5	1	2	0	9	
協力機関・協力研究者	3	7	0	0	0	10	4
合計	4	12	1	2	0	19	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した:○(ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし:× 当該年度実施なし:ー		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考: 日本側研究交流経費 ¥13,500,000			
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位:千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート(外貨1単位に相当する円貨額)
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費				0	2021/4/5	CAD	87.91
(2)相手国側研究者の国際航空運賃				0	2021/4/5	CAD	87.91
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費				0	2021/4/5	CAD	87.91
(4)相手国側研究者の相手国内旅費				0	2021/4/5	CAD	87.91
(5)相手国側研究者の研究経費	◎	Simon Fraser University	Chair's Research Fund	334	2021/4/5	CAD	87.91
(6)相手国開催のセミナー開催経費				0	2021/4/5	CAD	87.91
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)		合計		334			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名(和文)	ロシア
②拠点機関名(和文および英文)	
和文: 極東連邦大学 英文: Far Eastern Federal University	
③コーディネーター所属 部署・職名・氏名 (英文)	Educational and Scientific Museum・Director/Associate Professor・Alexsander Popov
④協力機関名(和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: ロシア科学アカデミー考古学研究所(モスクワ) 英文: Institute of Archaeology, Russian Academy of Science	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	1	2	0	4	0	7	
協力機関・協力研究者	3	9	0	1	0	13	
合計	4	11	0	5	0	20	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考: 日本側研究交流経費 ¥13,500,000			
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例: 2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート(外貨1単位に相当する円貨額)
A型のみ: パターン種別 パターン1か2を記入すること	1						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	x			0	2021/4/5	RUB	1.44
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	○	Far Eastern Fedral University	Prehistoric art of the Pacific basin: variety features,	422	2021/4/5	RUB	1.44
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費				0	2021/4/5	RUB	1.44
(4)相手国側研究者の相手国内旅費				0	2021/4/5	RUB	1.44
(5)相手国側研究者の研究経費	○	Far Eastern Fedral University	Prehistoric art of the Pacific basin: variety features,	351	2021/4/5	RUB	1.44
(6)相手国開催のセミナー開催経費	◎	Far Eastern Fedral University	Prehistoric art of the Pacific basin: variety features,	562	2021/4/5	RUB	1.44
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)		合計		1,335			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。